

RS ウイルスワクチンについて①

RSウイルスワクチンを接種できます

RSウイルスには気をつけて！

高熱が出ることもあるし…

気管支炎になることもあるの！

赤ちゃんも家族も大変！

わたしは妊娠8ヶ月の時にRSワクチンの接種をしたんです！

もっと教えて！

もっと教えて！

RSウイルスのワクチン接種は妊娠中にできる
お母さんからお腹の赤ちゃんへの最初のプレゼント！

2024年より日本でも母児免疫を利用したRSウイルスワクチンが使用可能になりました。具体的には、生後半年以内の赤ちゃんがかかると重症化しやすいRSウイルスに対するワクチンを妊娠後期のお母さんに接種します。ワクチンをうったお母さんの身体の中ではこれらの感染症に対する抗体(免疫物質)が作られ、約2週間かけて胎盤を通して赤ちゃんに移っていきます。お母さんから抗体をもらった赤ちゃんは、生まれてから半年程度、RSウイルスから身を守ることができます。米国ではすでに多くの接種がなされており、英国では2024年9月よりすべての妊婦が費用負担なしで接種可能となっています。(日本では現時点では任意接種となっており費用負担が発生します)。



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進事業
ライフコース予防接種時代のワクチンの有効性と安全性評価に関する研究

日本産婦人科医会

検索

こども家庭庁行政推進調査事業費補助金
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業
生殖・周産期に係る倫理的・法的・社会的課題の検討のための研究



RS ウイルスワクチンについて②

RS ウイルス感染症について

RS ウイルスは世界中に広く分布しており、
生後2歳までにほぼ100%がRS ウイルスに感染します。
乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%が
RS ウイルス感染症によるとされています。
症状は感冒様症状から下気道感染に至るまで様々ですが、
特に生後6か月未満で感染すると重症化することが示されています。
また、合併症として無呼吸、急性脳症などがあり、後遺症として反復性喘鳴（気管支喘息）
があります。



日本では、毎年約12万～14万人の2歳未満の乳幼児がRS ウイルス感染症と診断され、
約4分の1（約3万人）が入院を必要とすると推定されていますが、有効な治療薬はありません。
RS ウイルス感染による乳児の入院は、基礎疾患を持たない場合も多く（基礎疾患のない正期
産児等）、また、月齢別の入院発生数は、生後1～2か月時点でピークとなるため、生後早期
から予防策が必要とされています。
こうした罹患率と疾病負荷の高さから、予防が重要とされていました。

以下のサイトに動画がありますのでご参照ください

- <https://jaog.or.jp/rsvirusinfo/>

ウイルスワクチン啓発用素材のご案内・ウイルスワクチンを検討している方へ

RS ウイルス母子免疫ワクチン（アブリスボ® 筋注用）

RS ウイルス母子免疫ワクチン（アブリスボ® 筋注用）は、妊婦に接種することにより母体の
体内でRS ウイルスに対する抗体（RS ウイルス感染を阻止する抗体）を産生し、その抗体が
胎盤を通じて母体から胎児へ移行する（移行抗体といいます）ことで、出生後の乳児をウイ
ルスから守り、乳児におけるRS ウイルス感染症を原因とする下気道疾患を予防します。
適応症は、“妊婦への能動免疫による新生児および乳児におけるRS ウイルスを原因とする
下気道疾患の予防”、用法および用量は、**妊娠24～36週の妊婦**に1回0.5mLを筋肉内に接種
するとなっています。

費用について

この予防接種は自費診療で、**33000円（含消費税）**です。

自治体からの助成金により、**無料**となります。

マザリーでは、妊娠28～32週ころに接種をします。